



熊本県 宇城地区遊技業防犯協会  
「宇城地域安全安心町づくりへの防犯活動」事業



宇城地区遊技業防犯協会  
組合長  
有田聖一さん

選考理由

社会貢献活動審査委員会  
委員  
松尾守人氏



各店舗の男子従業員で9年前に編成された「青パトロール隊」。定期的(基本的には毎日)に地域を巡回して防犯にあたる。警察署のキャンペーンへの直接的協力の他、関係機関との密な連携もありその認知度は高い。加えて3年前に女子従業員で編成された「なでしこ見守り隊」。下校時に通学路周辺を巡回して子どもたちに声掛けなどを行う。子供たちと共に行う清掃活動など、交流やふれあいを大切にする女性視点での活動は貴重。

ホール従業員が協力して  
地域の安全や安心に貢献

警察と協力して青パトロール隊の巡回活動

12社14ホールで構成される熊本県の宇城地区遊技業防犯協会(以下、協会)。同会では、安全安心な町づくりの推進に寄与するため、宇城警察署と協力して、地域の防犯活動に積極的に取り組んでいる。その具体的な取り組みのひとつが、各ホールの従業員をメンバーとして実施している「宇城地区遊技業防犯協会青パトロール隊」である。

この青パトロール隊は、警察署で講習を受け、青色回転灯の装着が許可された15台の青パト車両によって構成されている。協会には14ホールが所属しているが、すべてのホールに最低1台は青パト車両があり、それがローテーションを組んで、宇城地区管内の小中学校周辺やJR宇城駅周辺、ショッピングモールの宇土シティモール周辺などを巡回パトロールしている。それまでは警察署や防犯関係機関の要請に従って青パトを走らせていたが、昨年8月から毎日、巡回することにし、通常は各日3~4台、どんなに都合が悪い日でも最低1台は出動している。その日の当番の人間が、可能な時間に30分~1時間かけて回るのが原則だが、やはり業務の都合や人手の関係で夕方が多いという。

「巡回ルートや、巡回の際にとくに重点的に注意することなどは、警察署の方と相談して決めます。最近では、宇城駅周辺での自転車盗難が多いということで、そこを重点的に回りましたが、40%ほど自転車盗難が減ったという連絡を警察から受けました。そういう事例を聞くと、私たちの活動が地域の防犯に役立っているんだという実感を持ちます」と、協会の有田聖一さん。「私たちの役割は、おかしいこと、あやしいことを見つけたら警察に通報すること。自分たちにケガやトラブルがあっては何にもならない。とにかく警察と密にコミュニケーションを取りながら、無理なく、しかし毎日続けることをモットーにしています」。



青色回転灯をつけた車で地域を巡回パトロールする



小学生と一緒に高架下の落書きを消す活動



振り込め詐欺防止のチラシ配布



振り込め詐欺防止のチラシ配布



JR松橋駅周辺の自転車の整理活動

女性従業員で構成されたなでしこ見守り隊

さらに協会では、所属する各ホールの1~2名の女性従業員15名ほどで構成される「うきなでしこ見守り隊」を結成、女性ならではの視点や気づきを生かし、とくに子どもやお年寄りが事件や事故に遭わないように見守る活動を中心に、地域の防犯や環境浄化活動などに取り組んでいる。

日常的に行われているのは、2~3人でチームを組み、児童の下校時に通学路周辺を巡回して、子どもたちに声かけなどを行うことである。最初は恥ずかしがって声を返さなかった子どもたちも、何度も声かけを行うことで、いまでは向こうから挨拶をしてくるという。「やはりわれわれ男性が声をかけるより、女性のほうが受けがいいようです」と、有田さん。各ホールではシフト調整などをして、なでしこ見守り隊の活動に協力している。

また、一昨年10月には、宇城市松橋町の国道3号バイパス高架橋下コンクリート壁の落書きを地元の小学生たちと一緒に消す活動を行ったが、それが地元の新聞に取り上げられたほか、小さな親切運動本部から「小さな親切実行章」を贈られた。さらに昨年度は、宇土シティモールで2回、地元の金融機関と合同で振り込め詐欺防止のチラシを配布したほか、宇城市にあるJR松橋駅で駐輪場の放置自転車の整理や植物プランターの設置を行った。

「こうした活動は、人のためというより自分たちのため。体を使い、汗を流すことで、いい経験になるし、自分たちが暮らす地域にも貢献できる。また、子どもたちをはじめとする地域の方々や従業員同士のコミュニケーションの充実にも役立つ」と、有田さん。「できる範囲で無理をせず」という方針が、継続につながっている。